



本校の授業改善に向けた視点					
指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	学校関係者評価	小中一貫教育の視点
<ul style="list-style-type: none"> 発問・板書・ノート指導を徹底する。 自分の名前を丁寧に書く指導を徹底する。 学習課題を提示し、考えやすい発問をする。 授業の導入・展開・まとめが分かる板書にする。 1単位時間の学習内容を見開きで記入させるノート指導をする。 下敷きを敷き、鉛筆の持ち方指導をする。 思考力・判断力・表現力を育成する。 授業の導入時に既習事項の確認をする。 児童の発想を大切に「話し合い」「発表・説明」「討論」を設定する。 考える時間を確保する。 討論・検討する時間を確保する。 毎時間自己評価をさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活科・総合的な学習の時間の全体計画を活用する。 1単位時間を弾力的に運用し、調べ学習の時間を確保する。 各教科・領域と総合的な学習の時間を関連させた指導を計画し、実施する。 朝のショートタイムを活用する。 漢字や計算の補充的な学習や読書の時間として利用する。 授業時数を確保する。 特別時程の編成により授業時数を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内研究「主体的・対話的に学ぶ児童の育成」～アクティブ・ラーニングの手法を取り入れた指導の二年間の研究を生かして～ 校内研究を通してアクティブ・ラーニングの授業づくりを進める。 保護者等、地域の人材をゲストティーチャーとして活用して教育活動をさらに充実・発展させる。 研究推進委員会と連携した研究、研修を行う。 コンピュータの研修を通じた授業改善・補充的な学習や発展的な学習を工夫し、個に応じた学習を充実・発展させていく。 主任教諭の会（ミニ研修会等）による一校目の若手教員の育成を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 通知表の工夫・改善を行う。 電子化による作業の効率化を図る。 所見では、児童の様々な活動を具体的に記述できるように工夫する。 効果的な評価方法を行う。 学習活動に即して効果的な評価方法を開発・実践していく。 児童の実態を踏まえ目標を明確にした授業を推進し、評価の結果をその後の指導に生かす。 個に応じた指導を徹底する。 授業ごとの評価を活かして、補充的な学習や発展的な学習を設定し、個に応じた指導を実践していく。 形成的評価を活用した指導を継続する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校関係者評価を生かした授業改善 ・校長の学校経営方針に基づく教育活動の充実や教員の資質向上を図る。 ・特色ある学校づくりを進め、児童の実態に即した個性を生かす教育の展開を図る。 ・教育活動全般を見直し、改善・充実を図る。 ・学校・家庭・地域社会が一体となった学校づくりを図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 小中一貫教育実践校として、「小中一貫教育プログラム」の実践を行う。 部活動体験、中学校文化発表会参観など中学校との連携を図り、中学進学への夢と希望をもたせ、意欲を高める。 ○小中一貫連携ルームの活用を見直し、実施時期の検討、改善および小中一貫プログラム学習指導案検討を行う。 指導方法や工夫・改善の考え方、具体策をまとめた「課題改善カリキュラム」を「小中一貫教育プログラム」で活用しながら改善を図る。